

横浜市立和泉小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	重点研究を中心に、意欲的に楽しんで学習に取り組むことができる学習問題を設定した。	重点研究で取り組んだ教科や単元では児童が意欲的に課題解決に取り組んでいた。全ての教科や単元で充実した授業をするには教材研究の時間確保が必要。	A B C D
2 豊かな心	よさを認める子どもへの声かけを日々行うとともに、地域の優れた文化、芸術等にふれる活動及び児童による文化的な活動、芸術鑑賞会などを通して情操教育を充実させた。	道徳の授業時間を中心にしてすべての教育活動を通し、自他を大切にすることを育んできた。学校司書が配置されたことにより図書室が活用しやすくなり、読書を通した心の教育もできた。	A B C D
3 健やかな体	逃走中、ドッジボール大会、長縄集会など1校1実践運動の取組を通して、休み時間を活用して継続的に体力を向上させた	年間を通して体を動かす取組をしているので、肥満な子がいない。健康に対して注意を呼びかける取組もし、欠席者数が少なかった。	A B C D
4 特別支援教育	発達障害に関わる研修を実施し、特別支援教育を充実し、個に応じた学習を行った。	児童支援専任を中心にチームを組んで個に応じた支援をすることができた。個に応じた特別な支援を必要とする児童が多く、取り出し指導などをもっとしたいが、職員数が限られている。	A B C D
5 伝統文化の学習	泉区伝統文化保存会の支援を受け、6年生の横浜の時間などで和泉の地域に伝えられている伝統文化を学習し、日本人としての文化や芸術に触れ、郷土を愛する心を育てた。	泉区伝統文化保存会や地域の協力者の支援により、充実した活動ができた。児童が生き生きと活動し、教えてくださる方や協力者の方々への感謝の気持ちを育てることもできた。	A B C D
6 保護者・地域との連携	「和泉小学校交流会」の組織を通して、PTA、学援隊、ハマロード、学校関係者評価委員会を機能させ、地域の一人としての児童を育てた。	「まちたんけん」「ニコニコふれあい広場」、米作り、伝統文化など地域の方から学ぶ機会を多くもつことができた。交流会を中心に地域・保護者が支えてくださっている。	A B C D
人材育成組織運営	重点研究や学校全体での研修の他、メンターチーム研修や学年研を充実し、学年での教材研究や実践研究を行った。	メンターチーム研修を年間計画に位置づけ、計画的に行うことができた。初任研も校内指導体制だったので、学年で歩調を合わせて指導できた。	A B C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	サマーチャリティーコンサートで見た和泉歌舞伎等、地域と連携した良い取組がされている。限られた時間で様々な取組を継続していくのは難しいと思うが、ぜひ継続して欲しい。年2回設定した小中相互授業参観は、互いにとって授業改善、確かな学力の養成につながってきている。しかし、通常の重点研究や小学校同士の参観は、なかなか参加するのが難しかった。来年度も年度当初に互いに計画を知らせ合い、計画的に参加できるようにしたい。また、統一した指導ができるよう、児童支援専任を中心にスタンダードを作っていきたい。
---------------------	--

学校関係者評価結果	判断力・創造力を身につけることと疑問をもち解決する力を身につけてほしい。伝統文化の学習などでの地域との連携は指導者を大切に、継続してほしい。ハマロード等を通して勤労奉仕の心を育んでほしい。高齢化社会への対応についても考えていく必要性を感じる。
-----------	---

評価結果に対する学校の見解	・今後も学校司書の力を生かして、読書活動を活性化し、自分でかだ解決に取り組む力をつけていきたい。 ・ハマロード、和泉歌舞伎等、地域と連携した取組は、今後も継続していく。 ・高齢化社会への対応については、総合的な学習で福祉も取り上げ認知症サポーター教室等を継続していきたい。
---------------	--

学校経営中期目標達成状況	・重点研究で扱った教科については、学習の楽しさを知り、課題解決に取り組むようになった。 ・体力向上に関心をもっている子が多い。だれもが進んで運動に取り組むよう、今後も実践していきたい。
--------------	---

共通取組重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	学年での教材研究や実践的な研修・研究を組織的に行う。始業前に引き続き朝読書を行うとともに、週1回国語算教を中心としたプリント学習を行った。	本年度より、朝学習として国語算数のスキル学習に取り組んできた。重点研究では体育を取り上げ、指導のポイントを学んできた。国語や特別活動の職員研修にも力を入れてきた。しかし、子どもたちの興味・関心をひき出し、学力を高めるための授業づくりについては、一層研鑽に励まなければならない。	A B C D
2 豊かな心	よさを認める子どもへの声かけを日々行い、すべての教育活動を通して人権教育を行う。11月には、人権教育の授業公開をした。	学校保健委員会において互いを認め合うことができる学級づくりについて話し合ったり、道徳や特別活動において指導を重ねたりしてきた。11月には、泉区人権教育実践推進校として区内の小中学校に授業を公開し、研究協議会を行う等の取組を行ってきた。しかし、一部の学年が難しい状態に陥ってしまったことから課題は残されている。	A B C D
3 健やかな体	体育の重点研究に取り組み、子どもたちに運動の楽しさを味わわせるような授業のあり方を研究した。1校1実践運動も継続してきた。	重点研究では体育を取り上げ、子どもたちに運の楽しさを味わわせる授業を行ってきた。「長縄集会」「ドッジボール大会」等児童会主催の集会活動も行い、肥満な子が少ない。	A B C D
4 特別支援教育	一人ひとりの発達段階をていねいに見取り、児童支援専任を中心に組織的にその子に合った特別支援教育ができるようにしてきた。	児童支援専任を中心にサポートチームを組んで組織的に対応することができた。教員だけでなく、学校司書、事務職、用務員、調理員など全職員で組織的に支援を行った。	A B C D
5 伝統文化の学習	泉区伝統文化保存会の支援を受け、6年生の横浜の時間などで和泉の地域に伝えられている伝統文化を学習し、日本人としての文化や芸術に触れ、郷土を愛する心を育てた。	泉区伝統文化保存会や地域の協力者の支援により、充実した活動ができた。地域のお祭りなどでも発表する機会が与えられ、児童が生き生きと活動し、自己肯定感を育てることができた。	A B C D
6 保護者・地域との連携	「和泉小学校交流会」の組織を通して、PTA、学援隊、ハマロード、学校関係者評価委員会を機能させ、地域の一人としての児童を育てた。	本年度よりまちとともにあゆむ学校づくり懇話会を開催した。スポーツテストや運動会などでも保護者や地域の力を借り、連携してよりよい学校作りをすることができた。	A B C D
人材育成組織運営	重点研究や学校全体での研修の他、メンターチーム研修や学年研を充実し、学年での教材研究や実践研究を行った。	メンターチーム研修を年間計画に位置づけ、互いに授業を見合い、計画的に行うことができた。	A B C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	運動の楽しさを味わわせる取組で健やかな体を育てていることは、心を育むことにもつながると思う。重点研究に体育を取り上げた効果も出ているのではないかと。学力向上は、取組を始めてすぐに結果が出るものではないが、今年始めたスキルタイム等を継続していくことで効果が出てくると思う。地域と連携した伝統文化の学習等で今後も地域の一員としての自覚をもたせ、自己肯定感を育んでいくとよい。
---------------------	---

学校関係者評価結果	引き続き挨拶がしっかりできる子の育成に取り組んでほしい。他者の気持ちを想像できるような一人一人を大切にしていることを継続し、自己肯定感の向上を図ってほしい。運動に力を入れた取組は、結果につながっていくことで学校全体を元気にするだけでなく、地域も元気にするので一層力を入れて取り組んでくれることを期待している。
-----------	--

評価結果に対する学校の見解	共通取組や重点取組に対して一定の評価をいただいた。地域の中で育つ子どもを育てる学校として人との関わり方に継続して取り組み、特に挨拶ができる子の育成に努めていきたい。また、基幹教科を重点研究に取り上げたり職員研修を一層充実させたりして確かな学力の向上に取り組んでいきたい。
---------------	---

学校経営中期目標達成状況	「3健やかな体」「4特別支援」「5伝統文化」「6保護者・地域との連携」については、概ね達成できたが、より一層の充実をめざし、継続して取り組んでいく。「1確かな学力」「2豊かな心」については課題が残ったので、基幹教科を重点研に取り上げて授業力を磨くとともに、落ち着いた生活環境を醸成して心を育む教育を実践していきたいと考えている。
--------------	--

共通取組重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	国語を重点研に取り上げ、推進委員会を中心に学年やブロック部会での教材研究や実践的な研修・研究を組織的に行い、授業力を磨く。	昨年度に引き続き、朝学習として国語・算数のスキル学習に取り組んだ。重点研究では、国語科を取り上げ、言語活動を通して言語能力を身につけることを目指してきた。一定の成果を上げることができたが、さらなる言語能力の向上を目指していく必要を感じた。	A B C D
2 豊かな心	学校保健委員会の取組や地域の優れた文化から学ぶ活動、地域の人々とのふれあい、和泉っ子コンサートなどの取組を通して豊かな心を育む	年2回の学校保健委員会は、4年生以上の全児童が参加し、言葉遣いをテーマに話し合いをした。取組の成果があり、相手を思いやる言葉遣いが学校によく見られるようになった。和泉っ子コンサートは、学年の団結を深めたり、互いを認め合ったり、音楽を通した豊かな心を育む大きな機会となった。	A B C D
3 健やかな体	休み時間を活用した逃走中、ドッジボール大会、長縄集会など1校1実践運動の取組を継続し、楽しんで運動に取り組む子を育てる。	「長縄集会」「ドッジボール大会」「全校鬼ごっこ」等児童主催の集会活動を行い、日常的な運動につながるよう努めてきた。	A B C D
4 特別支援教育	一人ひとりの発達段階をていねいに見取り、児童支援専任を中心に組織的に特別支援教育を行う。子どもたちの困り感に対して適切な指導支援が行える教師集団をめざしていく。	児童支援専任に情報が集まるような組織作りにつとめ、児童支援専任を中心に、組織的に対応することができた。和泉小学校全職員で、児童の支援にあたることができた。	A B C D
5 伝統文化の学習	泉区伝統文化保存会の支援を受け、6年生の横浜の時間などで和泉の地域に伝えられている伝統文化を学習し、日本人としての文化や芸術に触れ、郷土を愛する心を育てる。	泉区伝統文化保存会の支援を受け、充実した活動をする事ができた。地域行事等にも積極的に参加し、学習の成果を発揮することができた。	A B C D
6 保護者・地域との連携	「和泉小学校交流会」を中心とする地域の方、ハマロード、学援隊、PTA、B'cle と連携を図り、引き続き地域の一員としての児童を育てる。	年間を通して様々な行事を「和泉小学校交流会」を中心とする地域の方々との協力を得ながら、連携して取り組み、よりよい学校づくりに取り組んできた。	A B C D
人材育成組織運営	重点研究や学校全体での研修の他、メンターチーム研修を年間計画に位置付け、人材育成を図る。	メンターチーム研修を年間計画に位置付け、経験の浅い職員及びミドルリーダーの研修の場としてきた。互いに研鑽しながら高め合った	A B C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	児童の健やかな成長を目指した教職員、地域一体となった取り組みが、児童が安心して通える学校づくりにつながったと考えられる。特に全教職員が組織的に児童の指導・支援にあたる事ができたことが評価できる。重点研究への全職員の真摯な取り組みも評価できる。
---------------------	---

学校関係者評価結果	運動に力を入れた取組は、児童の健やかな身体、豊かな心の育成につながるばかりではなく、地域にも元気を与えている。これからも力を入れた取組に期待している。自分から進んで挨拶する児童が増えてきているように感じられるが、まだまだ、十分ではないので、地域と協力して進んで挨拶のできる児童の育成に取り組んでいきたい。
-----------	--

評価結果に対する学校の見解	学校の教育活動に対して一定の評価をいただいた。地域の中の学校として地域の協力を得ながら諸教育活動に取り組み、成果を上げてきた。これからも、教職員、地域一体となった教育活動に取り組んでいきたい。
---------------	--

学校経営中期目標達成状況	「2豊かな心」「3健やかな体」「4特別支援教育」「5伝統文化の学習」「6保護者・地域との連携」については、達成することができた。「1確かな学力」については、課題が残ったので、授業力向上を図るため、日々の研鑽に努めるとともに、確かな学力の定着を図るための取組を続けていきたい。
--------------	---

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要

中期目標達成状況